

第1 回復まちづくり委員会協議概要

(1) 被災状況及び取り組み状況について

- 事務局説明 資料1

(2) まちづくり懇談会開催結果について

- 事務局説明 資料2

(3) 釜石市復興まちづくり計画の策定について

- 事務局説明 資料3

- 高橋松一委員

- 委員長があいさつで触れた「災害が起きたのでメッセージを早く！」は全く同感。釜石の取り組みの遅さが残念だ。新聞を通じた限りでは遅れていると思う。日程は理解するが、こうした会議を通じて意見を束ねていく以外の方法はないのだろうかと思う。状況を本当に理解されているか不安や不審を感じ得ない。将来展望を感じないと焦りを感じているようだ。その原因は広報にある。もう少しスピーディな取り組み、国・県の動きをとらえて進めてもらいたい。
- 市内各団体もそれぞれ取り組んでいる。みんなの意見を聞くのは大切だが、決断が重要。たくさんの意見をどのような方法でまとめ上げようとしているか期待と疑念を持っている。決意を？

- 市長

- 今回は未曾有の災害であり後悔のないまちづくりを進めていきたい。自分たちが住むという認識が大事であり、地域の人たちのまちに対する思いや展望を聞くことが大切だと思う。スピード感が必要だが、時に応じて(じっくり話を聞きながら)取り組んでいきたい。結果的にはその方が早道と考える。必要なときには決断する。

- 長谷川委員

- 市長には、是非、リーダーシップを発揮してもらいたい。
- 釜石市はこれまで災害を受け復興してきたが、今とは時代が異なる。成熟した社会にあっては難しい課題だと思う。一方で難しいがやりがいのあるものだと思う。
- 4つの復興まちづくり基本方針はすべて関連性がある。一つ一つを取り上げるのではなく、総合的に取り上げるものである。スピードは大切。

- 小泉委員長

- 誤解のないように敢えて言うが、釜石の災害復興への取り組みは、他比べるとダントツはやいと思う。被災された方の感覚では遅いと感じられるかもしれないが、全体的なスピード感はむしろ国の方が遅い。

- 平田委員

- 被災地以外の地区でも、今後どんなまちづくりをするか説明してほしい。避難者や仮設住宅に住んでいる方がどう思われているかなども聞いてほしい。
- 広域ごみ処理など、遠野市など他市との関係は今後どうしていくか？

- 市長

- 被災した地域を対象に懇談会を開催したが、今後は被災地域以外の地域にも入って懇談していく。13市町村で結成した同盟会に遠野市は入っていないが、後方支援基地としての役割を担いながら支援してもらっており感謝している。
- 3市2町で整備したゴミ処理施設は被害を受けておらず稼働中。しかし、被災の影響でゴミの量が少ない。5市町とは協議しながら継続していく。

- 浦山委員
-

- 被災者は精神的に参っている。情報が伝わってこないため、困っている人の不安が解消されていないことも大きな要因。地元紙：東海新聞の偉大さを痛感している。
- 地域コミュニティは崩壊状態。互いの地域のがんばりがわかるような手だてを講じてほしい。
- 風間委員
 - 復興を進める上で財政基盤が制約条件になろう。各地区に対する計画は市としての計画案を示し、それに対する意見を聴いた方が進みは早いと思う。
 - 今回の震災により、今後、釜石の拠点をどこに置くのか？
- 和田委員
 - スピーディな復興計画の策定には一理あるが、あまり急ぎすぎるとついていけない人も出てくる。まちづくりも大切だが、今の生活をどうするかも大切。
- 菊池正明 委員
 - 委員会是要綱に示された3つの項目を調査審議する場と理解するも、これら以外についても意見を出していいのか？
- 総合政策課長
 - 次回以降、所掌事項に係る当方からの提案についての意見を願います。
- 小泉委員長
 - （ご意見がある場合は会議の）前日までに出示してもらえるとありがたい。

（４）今後の復興まちづくりへの意見・提案について

- 事務局説明 資料4
- 長谷川委員
 - 私案持っている。被災者・全壊したが、市の対応に不満はない。
 - 震災記念館。ハードだけでなく、ソフトの避難路。新たな方向性が広すぎるのではないかと思う。安心・安全に向けて、人間の英知でもって危険回避する方法を見出すことができると思う。安全安心と産業振興が2・3年でできると確信する。
- 斉藤委員
 - 復興の方向の柱立てとして、生活、まちづくり、学校教育、医療・福祉、地域産業と復興が大きな課題。産業振興として水産業・観光も考えるべきだと思う。
 - 雇用を早く確実なものにすることが課題。観光客の命を守ることも重要。防災都市計画はまちづくりの基礎になるので重要に考えてもらいたい。
 - 津波防災はハード・ソフト（の両面）が大切。湾口防波堤は効果の検証のとどまらず、熟慮して今後の方向性を考えてほしい。
- 多田委員
 - 釜石線は4月26日に再開。山田線は流出・損壊し甚大な被害。相当な時間かかる。
 - 鉄道復旧はまちづくりと一体となって進めていく。用地取得などの協力が必要。まちづくりの観点から参加していきたい。

（５）その他

- 事務局 第2回委員会は6月中の開催予定。

閉会

以上